

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-04

巻頭言

田中館, 秀三

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学研究室

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理

(巻 / Volume)

1

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

1

(発行年 / Year)

1950-07-01

法政大学地理学会は創立せられた。此会は生れ出づべくして生れ、然もその生命は永久的であり、会員の努力の続かん限り進展する。此処に本会の誕生を会員諸君と共に喜び、且創立委員の勞を謝する。

此際茲に二つのことを強調したい

其一は、此会は学会である限り眞摯なる研究は会の本旨であるといふことを忘れてはならぬ。如何なる問題の研究にあつてもその中に精神のこもつたものには眞理を必ず見出し得る。それ故会員は科学的良心をもつて、眞理への追求を疎かにしてはならない。而して法政大学地理学会は地理学徒の一団としてかゝる研究を促進するであらう。而して研究者は其の目的に対する不斷の努力によつて、日に日に身軀を新にし、向上せしめ而もその内的生活に豊かなる恵みを受ける。

二、地理学徒の社会に対する義務である。吾々は此度悲惨なる取亂を経験した。私は地理学徒として感ずるのであるが、強制せられたる唯我独尊的國民教育と、斷崖されたる國民の在界事情一知識に対する無理解とは、國をあげて戦争の中に吸ひ込まれた主なる因をなしたのである。戦後の日本の存立は一に在界各国との親善によつてのみ保証される。そして東亞の井底を根源とせし吾國民は今や國際の舞台に押し出された。従つて國民は在界各地の事情に通曉し、これによつて日本の在界に於ける地位を旺んにし、各國人を眞に理解し、之と相伍して國際平和への道を辿らねばならぬ。そして吾々地理学徒は職を直接教育界に奉ずると否とを問はず、吾々國民の間に國際事情を徹底せしむる義務を有する。

愚亦に自分一人の力は弱くして乏しい。地球表面の地に立脚する自然的、人文的諸現象一然もしばらくも止むことなき、変化する現象を研究対象とする広範なる地理学の学徒には特にその感を深くするものである。そして又走馬燈の如く進展して行く地理学は、たゞかくの如き地理学会一即ち地理学園の大きい力によつてのみ追求め来る。況んや地理学の先端に立つて学界に勇躍し國民を指導すべき学徒たらんとするものは、一倍の努力を要する。

上述の二目的の遂行を生命とする此会はたゞ会員全部の協力によつてのみ前進して行くのである。吾が若き地理学徒の健康を祈つて筆を置く。